

2014年9月18日

紅白玉入れを通して「数える」体験を積み重ねる

足立区第五ブロック幼保小連携活動の一環として、9月2日と3日に本園年長組で公開保育を行い、16名の先生方に参加していただきました。今年度のテーマは「子どもたちの数の概念を確かなものに」です。

現代に生きる子どもたちは、生活においても遊びにおいてもデジタル化が進み、数を唱えたり数えたりする体験が非常に減少しています。そのため小学校に入学してから、小学校算数の基盤になる体験が不十分であるため、躓きが生まれることも少なくありません。

そこで公開授業では、子どもたちが大好きな玉入れ協議を数回行い、子どもたちが遊びの中で様々な玉の数え方える体験をしました。

「いち、に、さん、し…」 「ひとつ、ふたつ、みっつ、よっつ…」 「に、し、ろ、や…」 の数え方や、さらに紙皿を用意し八百屋さんで売っている果物を思い出して、紅白の玉を5個ずつ紙皿に盛って、「ご、じゅう、じゅうご、にじゅう…」 という数え方も体験しました。

保育中の子どもの言葉たちからは、「『に、し、ろ、や…』 の数え方は、先生が朝礼の時にやっていた」「数えるのは簡単だと思ってたけど、いろんな数え方があって難しかった！」などの言葉が聞かれました。

また、参加された先生方のアンケートから、「子どもたちが落ち着いて保育者の話を聞いて活動していたので驚いた」「発言をたくさんしようとしている姿が見られてすばらしい」などの言葉をいただきました。

本園では、今後も子どもたちに数にかかわる体験を十分にさせていきたいと考えています。(園長 山田 誠)

「お皿に入れても数えられる」

